

ボランティア養成研修

期日 平成25年 5月18日(土)～19日(日) 参加者数 77名(高校生・大学生・社会人)

☆青少年教育の体験学習活動を支援するために必要な知識や技能について学び、今後のボランティア活動における運営能力や指導に生かすことのできる実践的能力の習得を図りました。☆

☆青少年教育に関わっている講師の方たちや自然の家職員とのつながり、ボランティア同士のつながりを深め、今後のボランティア活動に対する意欲が、さらに高まっていた2日間でした。☆

【実習】体験活動の指導法(徳地アドベンチャープログラム体験)



簡単なゲームを通して、初めて会う研修仲間ともすぐに打ち解け、今後の活動をスムーズに行えるようになりました。

【講義】「青少年教育の理解」

宇田川 光雄 氏

(元 国立山口徳地青少年自然の家所長)

現代の青少年になぜ自然体験や体験活動が必要なのか、実践例を元に詳しくお話をしてもらうことができました。



【実習】「野外炊飯の指導の実際」



実際に子どもたちへ指導することを想定しながら、ビーフカレーをつくりました。「生ごみをどれだけ減らせるかミッション」において、第1位はナント「37g!」

【講義】「ボランティア活動の意義」

高田 和宜 氏

(山口県キャンプ協会 副理事長)

ご自身が携われた長期キャンプの話を中心に、ボランティアとして子どもたちにかかわるためのポイントを教えていただきました。



【実習】「救急救命法」 山口市消防本部



心肺蘇生法・AEDの使い方を、真剣なまなざしで受講しました。各グループに消防士の方がついて、一人ひとりがしっかりと実習できました。

【講義】「青少年教育施設の現状と運営」

齋藤 直樹 氏

(山口県教育庁社会教育・

文化財課 社会教育主事)

山口県にある、県立・国立自然の家の現状や、山口県が推進している社会教育の内容について、お話をいただきました。



【ボランティア養成研修を修了した参加者からの声】 ☆TAPを体験し、仲間との団結を深める方法に多くの種類があることが分かった。☆一貫して安全管理の重要性を伝えられ、どのような視点で野外炊飯に取り組めばよいかイメージできた。☆指導する側の責任を理解できた。☆最近の子ども達が自然体験をすることの重要性がわかった。☆自分が何をしなければならないかを見つけるためには、人の動きをよく確認し、積極的にコミュニケーションをとることが大切だと感じた。☆考えさせられる内容ばかりで、本当に中身の濃い2日間だった。

さあ、次のステージへ! いざ、ボランティア活動のスタート!